

特別助成

「関西圏域でのパチンコ・パチスロ依存問題の相談支援」事業

パチンコ・パチスロの依存で苦しむ当事者や家族の回復・相談支援や啓発のためのセミナーを開催

パチンコ・パチスロの依存症者にも様々なタイプがあるが、それが原因で金銭的なトラブルを起こしたり、発達障がいや知的障がいを伴い、頼る人がいないケースもある。薬物依存やアルコール依存に取り組んできた神戸市にある団体が、社会的に弱い立場に置かれ、福祉的な支援が必要なパチンコ・パチスロの依存者を支援する活動を始めた。



神戸と和歌山で開催された依存症セミナーを告知するチラシ

薬物依存、アルコール依存症者に対する支援活動をギャンブル依存症者にも展開

2016年に兵庫県で唯一の依存症民間リハビリ施設として設立された一般社団法人「神戸ダルクヴィレッジ」は、薬物、アルコール、ギャンブルなどの依存症者、その家族、さらに薬物依存の問題を抱えるあらゆる関係者に対し、回復支援や相談支援を行っている団体である。当事者スタッフ、精神保健福祉士、保健師、介護福祉士などの職員を配置し、依存症から立ち直ろうとする方々の社会復帰を目指して活動を続けている。また、司法関係とも連携し、刑務所受刑者の方への入口・出口支援も行っているほか、啓発活動として、企業、一般、学校などを対象にした講演やセミナーも行っている。

同法人では関西圏全域での薬物依存症者、アルコール依存症者に対する支援を中心に活動してきたが、最近

ではギャンブル依存症問題を抱える家族からの相談が増えてきたという。そこで、ギャンブル依存症者に対しても施設利用や回復プログラムを提供しつつ、パチンコホールと連携して、ホール内でのチラシやポスターなどを通じた啓発活動や相談支援事業に乗り出そうと、様々な調査を行った。

その結果、関西圏においてはギャンブル依存問題に対する支援を専門的に行っている団体はほとんどないこと、また行政機関の対応も決してベストな状態ではないことがわかった。そこで同法人では、神戸市を中心にパチンコやパチスロで問題を抱えている人やその家族が気軽に相談できる場所の提供が不可欠と考えていたところ、パチンコ・パチスロ依存問題に取り組む団体に対するAJOSCの特別助成の存在を知り、それを活用して、パチンコ・パチスロ依存症者の生き方の再構築をサポートするための様々な活動に取り組むことにした。

パチンコ・パチスロ依存問題に対応する相談ダイヤルの開設やセミナーの開催

同法人ではAJOSCからの助成を受け、パチンコ・パチスロ問題で困っている方々への無料専門相談ダイヤルとして、「関西パチンコ・パチスロ問題相談ネットワーク」を開設し、月～土曜、10～19時の電話相談のほか、メールやウェブサイト、手紙での相談にも専門のスタッフが応じている。

また、昨年11月4日には神戸市総合福祉センターを会場に依存症セミナー「ギャンブリング障害～新しい視点からのアプローチ～」を開催した。

そこで依存症に対する同法人の取り組みと回復支援を紹介するとともに、認定NPO法人リカバリーサポート・ネットワークの代表理事としてギャンブル問題に取り組む精神

科医の西村直之さんを招いて基調講演をしていただいたほか、参加者との質疑応答を行った。

こうした活動を振り返り、同法人では、「私たちのところに相談に来るのは、ずっと生きづらさを抱えてきたなかで安らぎとなったのがパチンコやパチスロだったという方が圧倒的に多かった。私たちの取り組みが浸透してきたのか、2020年に入ってからパチンコ・パチスロに関する相談が増え、毎日のように面談の相談があります。まだまだパチンコ、パチスロへののめり込みや依存の問題は、正しく理解されていません。お酒は悪、パチンコは悪という偏見も未だにあります。こうした課題を解決するためには、もっとパチンコホールの関係者、経営者の方々と私たちの意見交換などが必要だと切実に感じています」と話す。



開催したセミナーでは各分野の専門家が依存問題について講演



助成団体:一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ

<http://www.kobedarc.org>



依存症支援者、ホール運営者、ユーザーのつながりが大事

この度は助成をいただき誠にありがとうございました。私たちの団体が直接、パチンコホールの団体の方々と話すことができ、セミナーにも遊技業の関係者の方々に来ていただいたことで、社会全体に理解を深める入口に立てたと思える一年でした。私は愛知県岡崎市の出身で、AJOSCの杉浦正健会長と同じだと後から知りました。これも何かの縁だと思い感謝しております。

一般社団法人 神戸ダルクヴィレッジ
代表理事 梅田 靖規さん